

# 状慘ヲ襲ヲ廓. 込

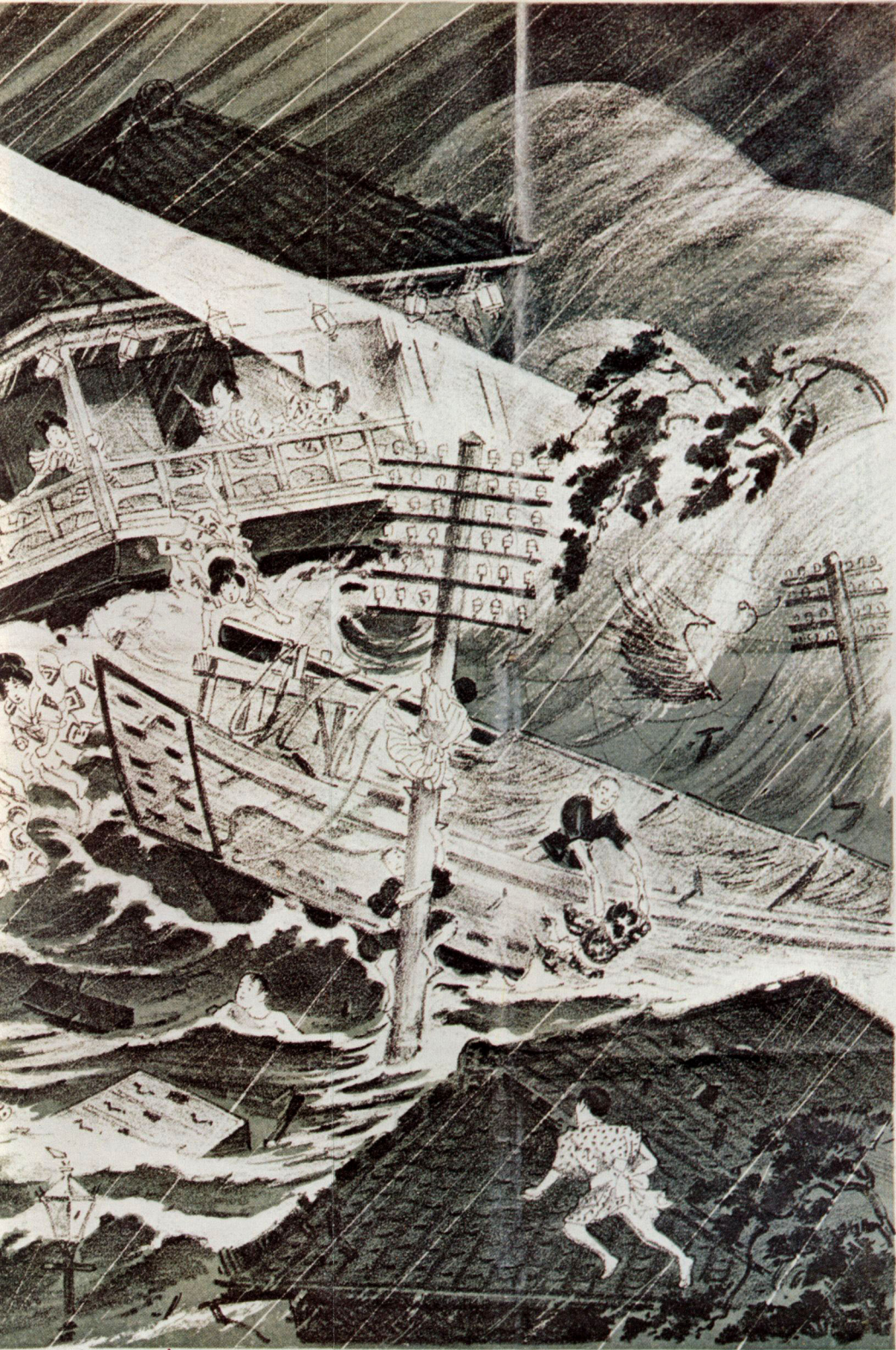


東京市下谷區南橋町卅七番地  
發行所 博 亜 館  
電話下谷區四貳七番

明治時代の台風による水害としては、明治43年のものが天明3年(1783年)以来の大水害といわれ有名である。このときは中部・関東・東北地方で浸水家屋51万以上、死者は1,383名に達した。

ここに示された洲崎遊郭を襲った大津波年7月25日、東海・関東・北海道東部を襲らされたものである。このときは品川湾に

# 大瀲洲崎



明治四十四年七月廿五日午後十時より次第に暴風雨に廿六日午前二時三至リテ全ク颶風ト變シ暴雨之ヲ奈シ東京全市ヲ荒シ去リ岸ヲテ東京灣ノ巨浪天ヲ懸テ一大海嘯トナリ大森ヨリ森ノ崎品川月高沿岸及洲崎ヲ襲ヒ中ニ洲崎ノ尤モ慘狀ヲ極メリ城東洲崎遊廓ハ井天町ニテ河岸ヲ地ヲ中心ニ堤防ニ迄キ新達江橋島海堤ノ大建物ヲ崩サス為メニソノト倒潰シ遊客娼妓ノ阿レキ悲鳴ヲ上テ救出セリ此慘害ヲ蒙リシ屍体ハ廓内娼妓五十余名其他當地木立場流出シ十五人ノ死者アリ負傷者ハ無數ナリ深川本所区ハ内浸水各倉庫ノ米鹽砂糖ノ被害ニモ一百余万円ノ損害ナリト云フ  
畏レ多クモ 天皇陛下ニ深ク御懇念ノ餘リ深更宿直侍從ヲ召ソレ給ヒテ民ハ辛苦ヲ厭ハセ給フ御仁慈ノ程仰ケテ畏レ多キ極ナラズヤ

は、この翌年の明治44  
った台風によってもた  
未曾有の高潮が2回起

こり、堤防が崩壊し家屋の流出するものも多かった。関東だけで  
死者は120名に達した。(根本順吉・本誌編集委員)